

めぐみイエス・キリスト教会

2022年6月26日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第614号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌416「聖霊来たれり」	p. 668
【交読文】	No.20 詩篇第57篇(抜粋)	p. 894
【賛美Ⅱ】	新聖歌16「いざやもろともに」	p. 20
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.5「聖霊の風」	
【聖書朗読】	使徒の働き17章16節～23節(新約p. 270)	
【礼拝説教】	《知られていない神に》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1. 「エピクロス派」と「ストア派」とは？

■**エピクロス派** この名称は開祖者、サモス島生れの哲学者エピクロス(紀元前342年～271年)からきている。彼は初め小アジアで教えていたが、後にアテネに移り、多くの弟子を集めた。エピクロスの最大の課題は、人生の目的は何か、それに到達する方法は何かということであった。

すべての人にとって、目的と目標は「幸福」である。幸福とは基本的に、快樂である。しかし、肉体的快樂より、精神の快樂が重要である。エピクロス派にとって、自然とは純粹に物質的であり、宇宙の根源は原子であるとする。魂(精神)は肉体同様、原子によって構成されており、死によって両者は終極に至る。ゆえに神というものは存在しないと唱えた。

■**ストア派** エピクロス派と並び称されるギリシヤ哲学の一派で、創立者ゼノンがアテネの壁面に絵の描かれた柱廊(ストア・ポイキレー)で講義し

たことに由来している。学説は論理学、自然学、倫理学の3つの学問に分け、特に倫理学を尊んだ。人間は小宇宙であって、その本質である理性は、宇宙の本質である理性(神)と同一のものであるから、理性に従う生活こそが、倫理的に正しい生活であると考えた。そして、彼らにとっての正しい生活とは、理性による感情と衝動の支配であった。この禁欲的道德観から「ストイック」(禁欲的)という言葉が生まれたと言われている。

●ポイント2. 「アレオパゴス」とは？

■**アレオパゴス** 高さ113メートルの「アレス神の丘」という意味。アレオパゴスの評議会の名でもある。軍神アレスがこのアレスの丘で審判を受けたという伝説からそう呼ばれるようになった。この法廷あるいは評議会は、アテネ市の長老たち(紀元前450年～)によって構成される。一時その権威が失墜した時期もあったが、ローマ時代には刑事事件だけでなく、再び宗教や教育道德の監督にも当るようになった。議会はアテネの市場(アゴラ)にあるストア・バシレイオス(王室柱廊)で開かれた。おそらくパウロがアレオパゴスに連れて行かれる前にいたのはこの広場であったと思われる。アレオパゴスは、アテネの最も重要な制度であり、古代の権力には及ぶべくもなかったが、やはり偉大な名声を保持し、道德と宗教に関して特別の裁判権を有していた。パウロは議会の真ん中に立って語った。

●ポイント3. 「知られていない神」とは？

※**ローマ人への手紙10章11節～14節「使徒パウロの確信」(新約p.314)**

10:11 聖書はこう言っています。「この方に信頼する者は、だれも失望させられることがない。」

10:12 ユダヤ人とギリシア人の区別はありません。同じ主がすべての人の主であり、ご自分を呼び求めるすべての人に豊かに恵みをお与えになるからです。

10:13 「主の御名を呼び求める者はみな救われる」のです。

10:14 しかし、信じたことのない方を、どのようにして呼び求めるのでしょうか。聞いたことのない方を、どのようにして信じるのでしょうか。宣べ伝える人がいなければ、どのようにして聞くのでしょうか。

◎先週の礼拝メッセージの概要【ベレアそしてアテネへ】

《ローマ帝国のマケドニア州の首都テサロニケにおける出来事です。三週間にわたるパウロとシラスの伝道によって、神を敬う多くのギリシヤ人や、テサロニケの有力な婦人たちが救われました。その、ねたみにかかられたユダヤ人たちは、パウロとシラスの一行を捕らえて、役人に引き渡そうと画策します。しかし、主イエスの特別な計らいによって難を逃れ、その代わりにヤソンと、主イエスを信じた他のユダヤ人の兄弟たちが捕らえられてしまいました。役人たちは、ヤソンと他の兄弟たちから保証金を取ったうえで釈放したのです。すぐさま彼らは行動を起こします。その日の夜のうちにパウロとシラスをベレアに送り出します。ベレアとは、マケドニアのエマティヤ地方にあったかなり古い町の事です。ここでもパウロとシラスは、ユダヤ人の会堂には行って教えました。この町のユダヤ人たちは、素直で、非常に熱心にパウロの語るみ言葉を受け入れたのです。また、本当にそのとおりかどうか、毎日聖書を調べました。そして、多くのユダヤ人たち、ギリシヤの貴婦人たちと男性たちが、主イエスを信じたのです。

しかし、テサロニケのユダヤ人たちが、約80キロ離れているにもかかわらず、ベレアにやって来ては、群衆を扇動して騒ぎを起こしたのです。ベレアの兄弟たちは、すぐさまパウロをギリシヤの最大都市であるアテネまで送り届けます。しかし、シラスとテモテはベレアに残ったのです。

アテネとは、古代ギリシヤの首都で、古代民主制を確立した最初の都市国家の事です。新約時代のアテネは、ローマ帝国の属州となり経済的な繁栄では、コリントやアレキサンドリヤに譲りますが、文化的にはエピクロスやストア派の哲学を初め、演劇や建築等の方面において、さらなる発展を遂げていました。パウロがアテネを訪れるのは、これが最初です。

パウロをアテネまで送り届けたベレアの兄弟たちは、シラスとテモテに宛てたパウロの伝言を持って帰路に着きます。そして、ここから、パウロ一人によるアテネ伝道が始まるのです。》

◎お知らせ

※鈴木師は午後から板橋泉教会礼拝メッセージの奉仕です。7月3日(日)の第一主日礼拝は、通常通り午前10時からです。

